岩北ユネスコスクールだより

2014.12.17 No.6

よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する子　富士市立岩松北小学校

☆造形表現でＥＳＤ！
素材は、芸術の源泉「富士山」

◎ぼくたち自慢の 世界文化遺産

４年生の図工「どんどん組んで」では割り箸を使って富士山をつくりました。初め自由に素材遊び、素材体験をする中で、三角形の形が強いことを発見した子どもに、「正四面体をたくさんつくって富士山をつくろう」と投げ掛けました。ちょうど富士山世界文化遺産登録１周年を迎えた６月のことでした。正四面体を積み上げる時も、高くするためにはすそ野を広くした方がいいという発見をしながら、４年生全員でつくり上げました。

６年生は未来の富士山を演出しました。４年生の割り箸富士山の周りに町をつくろうということになり、紙粘土でこんなものがあったらいいなという思いで、生き物や建物を散りばめました。

◎私たちのふるさと～「富士山と、」

富士の母	富士市のシンボル	芸術
愛されている山	日本の宝	僕の自慢
見守ってくれる山	みんなの人気者	
自然のかたまり	たくさんの生き物のすみか	

右は４年生の富士山を自分の言葉で表したものです。木版画を行った４年生は葛飾北斎の富士山の多色版画を味わい、芸術の源泉の証拠をみんなで見つけました。

そこで富士市の「富士山と、」ポスター募集に取り組むことにしました。一人一人、自分と富士山の物語を言葉にすることで、身近な存在の富士山への思いを膨らめました。

○友達と遊んだ帰り、夕日でオレンジ色になった富士山を見て綺麗だなと思う。朝は綺麗な青になっていて、今日は雪で上だけが白くなっていて冬のかき氷みたいだった。僕は雪をかぶっている富士山が好きです。

この後、富士の恵みを、けやき学習や新聞記事やインターネットなどを活用して調べ、絵に表しました。４年生のポスターは市に応募します。４年生が選んだ一例を紹介します。

富士山と

ゴジュウカラ	桜	リス	水	ニホンジカ	雲	岩本山の梅　コスモス
お茶	虹	カワセミ	オコジョ	アカゲラ	駿河湾	ヒメシジミ　モミジ

◎東海道広重美術館との連携～浮世絵刷り体験

社会科で江戸時代の文化である、歌川広重に出合った６年生が、広重美術館の出張プログラムで実際に多版多色刷りを体験しました。美術館の方の分かりやすく楽しい指導のもと、色が重なる度に、目を輝かせる６年生の姿がありました。日本だけではなく、海外の人たちにも親しまれてきた浮世絵。日本文化の魅力を体感した時間でした。浮世絵に興味をもった子が多くいます。是非、ご家族で広重美術館を訪れてみてください。

○版画にたくさんの色がついていることが不思議だったので、実際に刷りの体験をしてそのしくみが分かりました。わくわくどきどきして刷りました。きれいに色が重なってとても嬉しかったです。この体験で江戸時代の人たちの技術やすごさを感じました。広重美術館に行ってみたいと思いました。

○浮世絵はゴッホやモネなどヨーロッパの画家に大きな影響を与えていることが分かりました。開国をしてお皿や壺の包み紙に浮世絵が使われていたことが分かりました。吉原宿の面影がないか根方街道をよく見てみたいです。

○浮世絵は絵師や彫り師や刷り師の人たちの協力でできあがっていることが分かり、江戸時代の人たちは仲が良かったのだと思いました。一枚の絵が完成するまで、どのくらいの時間がかかったのかな。葛飾北斎や写楽の作品についても調べてみたいです。

※このように、富士山を素材に造形表現をすることで、富士山の魅力、日本文化の魅力、ふるさと富士市の魅力を改めて見つめ直す機会となりました。富士山、日本文化、ふるさと富士市をもっと好きになり、これからも大切にしたいという気持ちが育まれていくことを願っています。

（担当　四條　秀樹）